

シンリムカ 文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2020. 7. 22

No. 7



トゥペサンチセの茅葺き替え作業

現在、コタン内のチセ（トゥペサンチセ）の屋根の茅葺き替え作業をしています。初夏の爽やかな空気のなか、新しい茅が毎日少しずつ積みあがっていきます。こういった作業風景もチセ群の建ち並ぶ二風谷ならではの風景ではないでしょうか。高い場所での危険な作業のため近くまで立ち入ることはできませんが、少し離れたところから作業を見ることはできます。

これにともない、毎年トゥペサンチセ内で行われている「ユカラと語りべ」は7月末まで、シネチセで行われています。お時間のある方は足をのばしてください。

コタン内では他にオヒョウの皮を煮て、干すということも行っています。オヒョウは二風谷の伝統工芸品のひとつであるアットゥシ織りに利用される樹木です。こういった伝統的な作業工程が見られるのも二風谷ならではの風景ではないでしょうか。

今年は新型コロナウイルスの影響を受けて4月中から5月末まで休館していましたが、6月1日より通常開館となっています。ソーシャルディスタンスを保ちながら、入館の際にはマスクの着用、手指の消毒をお願いしています。

コタン内の作業を見ながら、二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館・アイヌ文化情報センターへお越しください。お待ちしております。

（笠原早百合）

沙流川流域のウウェペケレ

10月1日（木）から11月29日（日）まで、博物館伝承サロンで特別展を開催します。

アイヌの物語のひとつ、ウウェペケレ（^{さんぶん せつわ} 散文説話）は、普通の人間が主人公となり、節をつけずに散文で語られる物語です。アイヌ口承文芸は口頭で伝えられてきましたが、研究者らによる記録は筆記から始まり、時代の移り変わりとともに様々な媒体によって残されてきました。前年度の特別展では明治期の^{ろうかん} 蝸管音声資料を取り上げたのに対し、今回は平成に採録されたウウェペケレの映像・音声資料をご紹介します。また、アイヌ語を保存・活用する取り組みをパネルにまとめアイヌ口承文芸の今日的継承を考える機会にしていきたいと思います。地域に連綿と語り継がれたウウェペケレの世界を、皆さまと分かち合いたいと思います。（廣岡絵美）

特別展関連講座 11月14日（土）場所：沙流川歴史館

講師：千葉大学教授 中川 裕 氏

博物館（01457-2-2892）へ要申し込み。詳細が決まりましたら、まちだより・博物館ホームページでお知らせします。



故上田トシさんへの聞き取り（1998年3月）

歴史館インスタグラムのご紹介

沙流川歴史館では、施設周辺の四季折々の風景写真、かわいい野鳥や野生動物の写真、イベントの告知などを公式インスタグラムで公開しています。

新型コロナウイルスの影響で、なかなかお出かけができない現状ですので、歴史館の展示物の紹介もし始めました。現在フォロワー数は200人を突破しました！1,000人めざし、歴史館

の見どころ、二風谷コタンの魅力を発信します。町民のみなさまからのフォローもお待ちしております！ぜひご覧ください！

（佐々木知代）



Instagram

QRコードを読み取って
「フォローする」をクリック！



アカウント名「sar.muse」を検索する方法も！

sar.muse



沙流川歴史館大規模改修工事 ①

沙流川歴史館は、1980年代の二風谷ダム建設工事にともなう遺跡発掘調査が契機となり、北海道開発局室蘭開発建設部が施設を建設、平取町が管理・運営を受託する形で1998（平成10）年7月に開館しました。開館してから20年以上が経過し、施設内外の老朽化が目立ってきたことから、今年度から改修工事が行われることになりました。工事期間は、2021（令和3）年6月までの約1年間です。

現在行われている外構工事は、屋根平面部にあった芝・土壌・砂利などの撤去が終わり、雨漏りを防ぐ工事へ移行しています。また、展望ギャラリーも雨漏りを防ぐ工事を行うため、床面のシートを剥ぎ、石を砕く作業が行われています。内部工事は、事務室内の作業にともない事務室が仕切られたことで、エントランスホールの一部を仮設事務室として使用しています。

工事中でも沙流川歴史館は開館しているので館内の見学は可能ですが、作業音が館内に響くことがあります。大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。（本田卓也）



芝撤去作業



土壌・砂利撤去作業



展望ギャラリー 床面シート撤去



展望ギャラリー 床面破碎作業



エントランスホール仮設事務室



事務室内間仕切り

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 7—

植物地名のアイヌ伝承地（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

にぶたに湖左岸に整備されている歴史の散歩道（遊歩道）から、右岸側の山林にあるオプシヌプリ（穴があく・山）やウカエロシキ（互いに・上・で・立ちあがる：通称クマの姿岩）のほか、^{せんとう}マッターホルンに似た尖塔状の岩山であるスルクウンコッ^{ちょうぼう}を眺望できます。

スルクウンコッは毒矢を射ってくる者のアイヌ伝承（下記の伝承を参照）がある一方、スルクはトリカブトを指す植物名でもあります。一般にアイヌ語地名はその場所の植生を表すことが多いので、「トリカブト・ある・跡」という語意も考えられます。平取町にはトリカブトの採集地と思われるスルクと名のつく地名が幾つかあり、川向地区（^{かわむかい}沙流川左岸^{さる}）には旧小字名としてスルクウンピピ、スルクン、スルクウシ等の地名が伝えられています。

現在、スルクウンコッにほど近いイオルの森では、アットウシ（^{じゅひ}樹皮^{おりもの}の織物）の原料であるアツニ（オヒョウニレ）が植樹され、持続可能な森林利用を目指す取り組みが進められています。アツニや仕掛け弓に用いるスルク（毒・トリカブト）など、アイヌの有用植物のことを知ると、アイヌ伝承地めぐりやアイヌ民具を知る楽しみが増します。（長田佳宏）



二風谷の山林や川辺には、幾つものアイヌ伝承地やチャシ跡が残されており、歴史の散歩道とその周辺を散策しながら楽しめる。

スルクウンコッの言い伝え

大昔、沙流川がこのスルクウンコッのすぐ下を流れていた時代に、アイヌたちが舟に乗ってその岩山の下を通ると、えたいの知れない者が山の上から毒矢を射ってよこした。その毒矢に当たって度々アイヌが死ぬことがあったということです。

それでこの細く、高く尖った岩山の北側のくぼ地をスルクウンコッと名づけられたと聞きました。

（萱野茂 1984『沙流川沿いの地名』より）



伝承の文中では「岩山の北側のくぼ地」の名称とされているが、この「尖った山」そのものをスルクウンコッとする説明もある。

上記写真の拡大。国有林の針広混交林にある岩山である。このような特異な形状の岩塊に対してアイヌ伝承が語られることが多い。

アイヌ語を覚えてみよう ⑦

イランカラマテ！（こんにちは！）

今回は、もともとは日本語なのにアイヌ語として普通に使われ、『ウウェペケレ（散文説話）』などにもよく登場する言葉、いわば、『アイヌ語の中の、日本語からの借用語』を紹介します。

まずは、その代表格ともいえる「コント」。これは日本語の「こんど（今度）」がもとです。アイヌ語では「ト」と「ド」の音は区別しないので、「コント」とも「コンド」とも発音されます。

例）「オラウン コント ネア メノコ イソイタク。」

それから今度はその女が語ります。

【オラウン・それから コント・今度は ネア・その メノコ・女が イソイタク・語る】

つぎは「ソレクス」。これも大変よく使われる言葉で、もとは日本語の「それこそ」です。

例）「ソレクス カムイ ネ ノイネ ピリカ オッカイポ ウタラ アラキ ヒネ」

それこそ、神であるかのような美しい若者たちがやって来て

【ソレクス・それこそ カムイ・神 ネ ノイネ・～であるかのような ピリカ・美しい
オッカイポ ウタラ・若者たち アラキ・来る ヒネ・～して】

最後にもう一つ。日本語の動詞の後に「タロ」を付けることで、日本語と同じ意味合のまま、アイヌ語の中でも使える、という面白い用法があります。

例）「カッタロ（勝つ）」、「マケタロ（負ける）」、「ヨロコンタロ（喜ぶ）」

「タノンタロ（頼む）」、「ウタッタロ（歌う）」、「アンチカッタロ・預かる」

「アヤマッタロ・謝る」

これはとても便利です。この要領なら、いろいろな表現を造り出せそうですね。では、さっそく作文してみます。

「コント ソレクス クヤメタロ クス ネ。」

今度はそれこそ止めにしますよ。

【コント・今度は ソレクス・それこそ ク・私 ヤメタロ・止める クス ネ・～ですよ】

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

近藤重蔵 ～幕臣・北方探検家～

札幌を中心とする蝦夷地の開拓計画を幕府に進言しました

近藤重蔵は江戸時代後期の幕臣、北方探検家です。1771（明和 8）年、与力の近藤守知の三男として江戸（現在の東京都）の駒込で生まれます。名は守重です。幼い頃から頭が良く、20 歳で与力となり、24 歳の 1794（寛政 6）年、役人登用試験を優秀な成績で合格します。翌年、長崎奉行の役人になり、そこで海外の情勢を見聞し、蝦夷地や北方周辺の動向に強い危機感を抱きます。1797（寛政 9）年、蝦夷地政策についての意見書を幕府に提出し、1798（寛政 10）年、最上徳内らと蝦夷地に行き、国後島・択捉島を探検します。その際、択捉島の領有権が日本にあることを示すため、島に『大日本恵登呂府』の木柱を立てます。この択捉方面からの帰りに平取に立ち寄った際、アイヌ民族が源義経公を「ハンガンカムイ」として崇拝していることを知り、1799（寛政 11）年、義経公の木像をハヨピラに小祠を建て奉納します。その後も数回にわたり蝦夷・樺太・千島などを探検し、道路の建設や航路の開拓に力をいれました。また、詳細で貴重な北方地域の地図や資料を作製しました。



近藤重蔵肖像画
『江戸時代館』2002年より

1808（文化 5）年、これまでの功績により、江戸城紅葉山文庫の書物奉行となり栄転します。しかし、1819（文政 2）年に大坂弓奉行に左遷されます。さらに、1826（文政 9）年に長男の富蔵が別荘の所有権をめぐって、隣家の一家 7 人を殺して八丈島へ島流しとなり、父親の重蔵も責任を問われ、近江国大溝藩（現在の滋賀県高島市）に預けられました。そして、1829（文政 12）年、59 歳で亡くなりました。



義経公の木像（修復前）
『佐義経』2001年より
江戸神田在住の仏工、法橋善啓に義経公の木像を作らせる（高さ33cm余り）
2018～2019年に修復

重蔵は探検の際、まだたくさんのお木々に覆われていた札幌周辺を見て、札幌を中心とする蝦夷地の開拓計画を幕府に進言しています。のちに札幌が北海道の中心地になったことからみて、重蔵には先見の明があったといえます。しかし、重蔵の個性的すぎる性格が数々の悪評をもらし、なかなか自分が思うような役職につくことができませんでした。（久米智江）

文政の三蔵と呼ばれた人たち

近藤重蔵：択捉島に『大日本恵登呂府』の木柱を建立（日本の領土を示すため）
間宮林蔵：探検家。樺太（サハリン）が島であることを確認し、間宮海峡を発見
平山行蔵：兵学者、剣豪。蝦夷地（北海道）にロシア人が出沒するようになると南下を阻止するため幕府に蝦夷地への渡航を願い出る

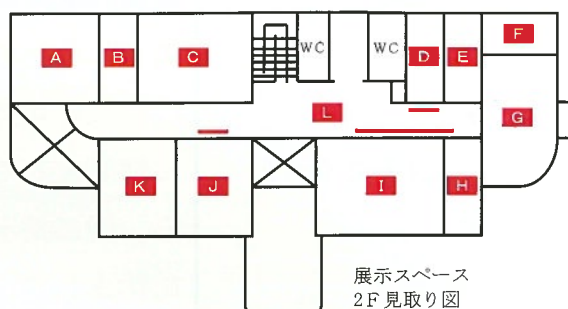


開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その7：展示の利用について

回想法の 実践

旧荷負小学校展示施設



- A 商業・生活
- C 学校
- D 地域の記憶
- E いろいろな道具たち
- G 林業・馬具
- I 収穫(秋)
- J 畑・稲作(春)
- K 家での暮らし
- L 壁面展示(—展示箇所)

B・F・H 関係者専用

今回は、開拓財産展示施設の利用例をご紹介します。

平取町の介護施設にお勤めのKさんから、開拓財産の写真を撮影してほしいとのご要望がありました。施設で利用者の方々に、仕事や暮らしの道具の写真をお見せすると、使い方や当時の思い出を生きいきとお話してくれるそうです。認知機能回復の有効な題材として活用されています。



【回想法とは】

昔の懐かしい写真や音楽、昔使っていた馴染み深い家庭用品などを見たり、触れたりしながら、昔の経験や思い出を語り合う一種の心理療法です。

【効果】

昔のことを思い出して言葉にしたり、相手の話を聞いて刺激を受けたりすることで脳が活性化し、活動性・自発性・集中力の向上や自発語の増加が促され、認知症の進行の予防となります。また、昔の思い出に浸り、お互いに語り合う時間を持つことで精神的な安定がもたらされます。
〈健康長寿ネットより引用〉



展示施設の民具の数々

〈Kさんのお話より〉

押し切りで〇〇さんが指を切ってたとか、薪を割ったり運んだり、兄貴はサボってばかりいたというお話が聞けました。



デイサービスにてお話されているようす

見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せください。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

開拓財産展示施設には、懐かしい民具資料や廃校となった学校の写真や校歌などを展示しています。地域の郷土学習や総合的学習等で、広く町民の方々に利用していただける施設となっていますので、お気軽にお立ち寄りください。(廣岡絵美・小林斉子)



平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■博物館移動展 in 札幌

『1903年夏の平取』

～B・ピウスツキたちの短期調査より～』

期間：7月26日（日）まで

8:45～22:00

場所：札幌エルプラザ 2階交流広場

（札幌市北区北8条西3丁目）

問合先：北海道ポーランド文化協会・安藤

080-4071-0956

hokkaidopolandca@gmail.com

■特別展

『沙流川流域のウエペケレ』

期間：10月1日（木）～11月29日（日）

場所：平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■博物館特別展関連講座

期日：11月14日（土）

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

沙流川歴史館

■ダムカード配布休止中

今般の新型コロナウイルスの感染症対策に関しまして、感染拡大を防止する観点から、国の指示によりダムカードの配布を一時休止しています。ダムカードの配布再開が決まりましたら、歴史館Instagram・町HPでお知らせします。

■特別展

『知ってみよう！やってみよう！』

はじめての考古学』

期間：10月1日（木）～11月29日（日）

場所：沙流川歴史館エントランスホール

休館日：10月5日・12日・19日・26日

11月2日・9日・16日・24日

■歴史館特別展関連講座

期日：11月1日（日）

場所：沙流川歴史館レクチャーホール

※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、上記行事が中止もしくは延期になる可能性があります。詳しくは博物館HP・歴史館Instagram・町HPでお知らせします。

2020年7月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

2020年8月

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

2020年9月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

2020年10月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

● 歴史館 休館日

■ 博物館・歴史館 特別展

※7/22～10/31 博物館は休まず開館しています

シシムカ文化財だより No.7

2020年7月22日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

